【感染症の種類】

家庭保存用

	要再受診	感染症名	感染しやすい期間	登園のめやす
1	○	麻疹（はしか）	発症の1日前から発疹出現後4日目まで	解熱後3日を経過してから
2	○	風疹（三日ばしか）	発疹出現の前7日から後7日間くらい	発疹が消失してから
3	○	水痘（水ぼうそう）	発疹出現1～2日前から痂皮形成まで	すべての発疹が痂皮化してから
4	○	流行性耳下腺炎 （おたふくかぜ）	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで
5	○	結核		感染のおそれがなくなってから
6	○	咽頭結膜熱（プール熱）	発熱、充血等症状が出現した数日間	主な症状が消え2日間経過してから
7	○	流行性角結膜炎	充血、目やに等症状が出現した数日間	感染力が非常に強いため結膜炎の症状が消失してから
8	○	百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失するまで、または5 日間の適正な抗菌性物質製剤による治療を終了するまで
9	○	腸管出血性大腸菌感染症 （O157 O26　O111 等）		症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されてから
10	○	急性出血性結膜炎		医師が感染の恐れがないと認めるまで
11	○	侵襲性髄膜炎菌感染症 （髄膜炎菌性髄膜炎）		医師が感染の恐れがないと認めるまで
12		溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	抗菌薬内服後 24～48 時間経過していること
13		マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
14		手足口病	手足や口腔内に水疱・潰瘍（かいよう）が発症してから数日間	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響が無く、普段の食事がとれること
15		伝染性紅斑（リンゴ病）	発疹出現前の1週間	全身状態が良いこと
16		感染性胃腸炎 （ノロ、ロタ、アデノウイルス等）	症状のある間と、症状消失後1週間 （量は減少していくが数週間ウイルスを排泄しているので注意が必要）	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること
17		ヘルパンギーナ	急性期の数日間（便の中に1か月程度ウイルスを排泄しているので注意が必要）	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
18		RSウイルス感染症	呼吸器症状がある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
19		ヒトメタニューモウイルス感染症	呼吸器症状がある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
20		帯状疱疹	水疱を形成している間	すべての発疹が痂皮化してから
21		突発性発疹		解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと
22	○	インフルエンザ	順調に回復せず、出席停止期間を経過しても症状があり、再受診が必要となった場合は再受診が必要です。	
23	○	新型コロナウイルス感染症		